第２回　泉佐野市総合教育会議　議事録

１．日　　時　　平成２８年１１月１０日（木）午前１０時００分

２．場　　所　　泉佐野市役所５階　理事者控室

３．出席者

構　成　員	市　長	千代松　大耕
	教育長	奥　真弥
	委　員	北浦　秀樹
	委　員	南　一早枝
	委　員	畑谷　扶美
	委　員	山下　潤一郎
	委　員	中村　スザンナ
	委　員	赤坂　敏明

事務局及び関係職員

政策監（兼）教育部長	上野　正一
教育総務課長	樫葉　浩司
教育総務課教職員担当参事	茶谷　由孝
教育総務課学校給食担当参事（兼）学校給食センター所長	薮　剛司
学校教育課長	辻　和彦
学校教育課学校指導担当参事	明渡　賢二
学校教育課人権教育担当参事	和田　哲弥
政策推進課長	松下　庄一
教育総務課長代理	北庄司　俊明
教育総務課主幹（兼）係長	森　昌俊

１．議　題

（１）泉佐野市の子どもたちの現状と課題について

～全国学力・学習状況調査分析結果から～

（２）その他

２．議事の経過

（午前１０時００分開会）

上野教育部長

定刻になりましたので、只今から平成２８年度第２回泉佐野市総合教育会議をはじめます。本日の会議の進行を務めます、教育委員会教育部長の上野です。よろしくお願いします。

本日の傍聴はありません。開会にあたり、千代松市長からご挨拶をお願いします。

千代松市長

開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。本日は教育委員会の皆様方におかれましてはご多忙の中、本会議にご出席いただきましてありがとうございます。また平素から泉佐野市の教育行政の充実及び発展のためにご尽力を賜り、心から感謝を申し上げます。さて本会議は、教育委員会と首長が地域の教育の課題に対してあるべき姿を共有して、より一層民意を反映した教育行政の推進を図ることを目的としたものでございます。

今年度２回目の開催となる本日は、協議事項として「泉佐野市の子どもたちの現状と課題について～全国学力・学習状況調査分析結果から～」を出させて頂いております。全国学力・学習状況調査は、学力の調査のみならず、子どもたちの学習や生活の状況についての調査をあわせて行われております。今回は特にそういった面から泉佐野市の子どもたちの現状をご認識いただき、どのような取り組みが必要なのかなどのご意見をいただき、本市の教育施策の改善につなげてまいりたいと考えています。教育委員の皆様方におかれましては忌憚のないご意見を賜りたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

上野部長

ありがとうございました。それでは会議事項に入ります。次第に従い、１．泉佐野市の子どもたちの現状と課題について～全国学力・学習状況調査分析結果から～について、説明をお願いいたします。

明渡学校指導担当参事

平成２８年度の調査は、小学校６年生と中学校３年生の児童生徒を対象とし、学力に関しては、小学校では国語、算数、中学校では国語、数学の調査が行われ、併せて児童生徒の学習や生活の状況、学校の取組みに関する調査も行われました。

まずは学力面について、始めに正答率の経年変化についてお話しさせていただきます。正答率の経年変化のグラフをご覧ください。上段は市内13小学校の平均正答率の大阪府との対比になっています。縦の値が1.00で府の平均と同じということになります。例えば国語Bは正方形マークのグラフになりますが、平成２２年度で0.95となっており、府の平均を５％下回っているということになります。小学校では平成２５年が最も平均が高く、国語A（ダイヤマーク）と算数A（三角マーク）で府の平均を上回っていました。平成２６年には、全ての項目で平均を少し下回る状況となっています。国語A算数Aは平成２７年２８年とほぼ横ばいですが、国語B算数Bは平成２７年に一度下がり、平成２８年には少し改善しているという状況です。

次に下段ですが、中学校の平均正答率の大阪府との対比になっています。国語A算数Aについては、平成２７年には少し下がっていますが、平成２８年は改善の傾向にあると考えられます。国語Bについては、平成２６年から２７年にかけて下がりましたが、平成２８年には改善が見られます。数学Bについては平成２６年をピークに低下傾向にあります。

次に、ホームページ公開予定の全国学力・学習状況調査の分析結果についてご説明させていただきます。２ページの「はじめに」をご覧ください。「全国学力・学習状況調査」の実施要領では，教育委員会における市町村・学校の結果公表の取扱いについて，「調査により測定できるのは学力の特定の一部分であることなどを踏まえるとともに，序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。」としています。このことを踏まえ，実施要領に定める配慮事項に十分留意した上で，個々の学校名を明らかにした調査結果を平成27年度同様、公表させていただきます。

各学校の平均正答率及び分析結果についても、市と同様の形式でまとめています。分析結果につきましては、11月18日（金）にホームページで公表する予定となっています。ただ、大木小学校につきましては、６年生児童が極めて少ない（３人）ため分析結果の公表はいたしません。

学力の状況につきましては、先ほど経年変化のところで触れさせていただきましたので、市全体の分析結果の中から、児童質問紙の分析についてご説明させていただきます。６ページをご覧ください。児童質問紙の国語の分析です。項目の２つめの「国語の勉強は大切だと思いますか」については、全国と同じ91.3％の児童が肯定的な回答をしており、また、５つめの「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についても86.6％と高い割合を示しています。一方目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすることについては、52.1％と低い状況にあります。続いて11ページ小学校算数ですが、「算数の勉強は大切だ」が91.6％「将来、社会に出たときに役に立つ」が88.4％と高く、また、「算数の解き方が分からないときは、諦めずに色々な方法を考える」を肯定する児童が80.3％と意欲的であることがうかがえます。「解き方や考え方が分かるようにノートに書く」活動や「言葉や式を使ってわけや求め方を書く活動」などに課題があります。

次に25ページの中学校国語ですが、「国語の勉強は大切だと思いますか」については85.2％の生徒が大切だと認識していますが、「自分の考えを話したり、書いたり」することや「うまく伝わるように話の組立を工夫すること」などが50％を切っており、さらに全国との差も大きくなっています。31ページの中学校数学では、「最後まで解答を書こうと努力しましたか」については全国との差はありますが87.3％と高い割合を示しています。また、「数学ができるようになりたい」と思っている生徒も87.6％と高い割合になっています。一方「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」については、全国との差が6.9ポイントあり課題となっています。

次に生活の状況に関してですが、34ページをごらん下さい。これは、中学校の生活状況についてですが、小学生・中学生ともにテレビ・ビデオ・ＤＶＤ等の視聴時間が長いことやテレビや携帯ゲームの使用時間が長いことが課題です。また、家で学校の宿題や授業の予習・復習をしている割合が全国を下回っていることも課題です。これらと学力との間には相関関係があることが分かっています。そこで、４ページにありますように、各校種の分析のはじめには「いっしょに取り組みましょう！」と呼びかけて、課題を基に児童生徒や教職員、また、ご家族のかたが、それぞれの立場で、どのようなことに気をつけていくことが望ましいのかを６つに絞って、提案させていただいています。①授業中は、学習ルールを守りましょう。②授業では、答えの理由も書いたり話したりしましょう。③宿題を含めて，家庭学習する慣つけましょう。④本を 読む習慣をつけましょう 。（１日３０分～１時間を目安に）⑤テレビ・ＤＶＤ等の視聴は、時間を決めましょう。（１日１時間以内を目安に） ⑥ケータイ・スマホの使用は、時間を決めましょう。（１日１時間以内を目安に）の６点を提案させていただいています。

次に、泉佐野市で取り組んでいる学力向上の８つの方策等についてご説明させていただきます。まず、夏季休業期間の短縮及び土曜授業の実施についてです。夏季休業期間の短縮は平成２７年度から実施していまして、２学期の始業式を８月25日にしております。また、土曜授業につきましては平成２８年度より月１回実施しています。この２つの施策により、年間の授業時数を通常よりも約40時間多く確保することができています。

次に、今年２８年度から市の単費で、小学校３・４年生で35人以下の少人数学級を実施し、子どもたちに対して手厚い指導を行えるようにしています。来年度２９年度からは、小学校５・６年生でも35人以下の少人数学級を実施します。

次に、授業保育づくり研究グループについてです。「中学校の荒れ」の克服をめざすことをきっかけとして、平成２０年に「いずみさの教育文化運動」が始まり、この運動を推進するための組織として平成２１年に「学力向上プロジェクトチーム」が結成されました。また同じ平成２１年に、幼小中の11年間で一貫した教育を見通し、キャリア教育の視点もとり入れ、魅力ある授業・保育の確立について研究する「授業・保育づくり研究グループ」を立ち上げました。授業・保育づくり研究グループは、「支えあい・学びあい・響きあい」をテーマに、２年間を１サイクルとし、各中学校区グループ単位で授業・保育の改善に取り組んでいます。12月には研究成果のまとめ・発表を、教育フォーラムを通じて、市内の教職員や保護者・地域の方に発信しています。また、各中学校区でのめざす子ども像の共有などを通して、校種間連携を推進しています。

次に、「学力支援コーディネーターの配置」についてですが、先ほど申し上げました「学力向上プロジェクトチーム」の中心的存在として平成２１年より配置しています。市域全体の学力向上や各校園の研究をさらに進めるにあたっての指導や助言、教育関係諸機関・諸団体とのコーディネート等を業務としています。日常的には、学校園の教員等への指導・助言等を行うなど、これまでの経験をいかした、多面的、機能的な学力面を中心とした学校支援を行い、学習環境の整備に務めています。

次に「泉佐野まなびんぐサポート事業」についてですが、放課後の学習会に学習の支援を行う「まなびんぐサポーター」を平成２３年度から試行的に開始し、平成２４年度以降、全小中学校で実施しています。放課後学習を充実させることで、児童生徒に寄り添いながら学ぶ環境づくりに努め、基礎学力の定着を図っています。また、個別学習の機会を設けることで、自学自習力の育成にもつなげています。

次に、「学力向上アドバイザーの配置」についてです。学力の課題の特に大きい小学校２校に対して、各学校の実状に応じた支援・指導助言を行うため平成２６年度より配置しています。学校の実態に応じた、授業づくりや学習ルールの定着など、学力向上面に関する助言により教職員の授業力向上を通じて、児童の学力向上につなげています。

次に「算数サポート事業」についてですが、平成２７年度から、特に算数の学習・学力の定着に課題のある小学校に対して、算数サポート補助教員を派遣し、算数の授業に入り込んで、児童の学習支援を行っています。６つめの「学力向上担当者会」についてですが、全小中学校の学力向上担当者により年間５回実施しています。各校の学力向上の取組みの状況や進捗を共有し、自校の取り組みの改善を図ったり、全国学力・学習状況調査の結果及び分析を共有し各校の取り組みに活かすなどしています。また、中学校区単位で共通して取り組む内容の検討や市内統一アンケートを実施・活用して取組みの検証・改善などを行っています。

泉佐野市の子どもたちは、国語や算数の勉強を大切だと思い、その学習が社会に出た時役に立つ、勉強ができるようになりたい等、意欲的であることが分析から見えてきました。土曜授業や夏季休業の短縮で生み出した授業時間をはじめ、本日ご説明させていただきました学力向上の方策をより有効に活用し、子どもたちの学力の向上に結び付きますよう取り組んでまいります。

上野部長

ただいまの説明につきまして、皆様でご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

千代松市長

子どもたちの学習意欲が高いのに、どうして学力向上につながらないのですか。

明渡参事

教員が子どもたちの意欲を十分に引き出せていないというところもあるのではないかということで、先ほど申し上げました学力向上担当者会等でなぜ伸びないかという分析もさせていただいているという状況でございます。

千代松市長

泉佐野の教員の質が悪いということではないのですか。

明渡参事

いいえ。他の市と比べて質が悪いとは思っておりません。今後は子どもたちが自分から進んで勉強するアクティブラーニングを授業の中にとりいれていく等、研修を行わせていただきながら授業改善を図らせていただいているところでございます。

千代松市長

子どもたちは意欲的なのですよね。教員の質も悪くない。なのに、なぜ学力の向上が見られないのか、説明が矛盾していませんか。

明渡参事

授業の手法、上手く伝える手法について研究・検討しているところです。

上野部長

他にございませんか。

山下委員

市長の指摘の通りだと思います。経済では関空のおかげで少しずつ良くなってきているとは思うのですが、教育に関しては大阪府北部が良くて南部が低いということが続いているように思います。その理由としては、地域の経済の事情等、諸々複合的にあると思うのですが、数字を見れば低いのは間違いありません。大阪府との比較で低いということは、全国との比較ではもっと低い。小学校はグラフを見ると平均１より少し低いくらい、中学校の３年間の間にそのグラフがさらに 0.5 から１くらい下がっているので、夏休みを少なくするなどの手法で結果につながるのだろうかと思います。学力向上アドバイザーを配置されているのですが、配置された学校でこの２年間くらいの成績があがっていないという事実もあります。学力の高い学校はアドバイザーがいなくても（成績が）良いわけですし、アドバイザーが居てもいなくても、結果が一緒であれば、その点、検証が必要だと思います。今までも夏季休業期間の短縮や土曜授業の実施で様々な反対がありましたが、どんな反対があっても、子どもたちの将来のためには勉強させていかないといけないというのは間違いがありません。教育委員会事務局としてもこれから平成２９年度に向かって新しい取組みを(土曜授業を増やす等)考えていただきたいと思います。

上野部長

ただいまの山下委員のご意見について検証等のこともありましたが、その点について事務局の認識はありましたでしょうか。

明渡参事

ありがとうございます。始まったばかりで各々模索をしている状況ですが、より子どもたちが勉強に向かえるように学校に指導して参りたいと思います。ありがとうございます。

赤坂委員

多少重複する部分もありますが、学力向上のために、子どもたちに対する施策と先生方に対する施策、両側から学力アップを目指してやっているのに結果がついてきていない。むしろ結果が悪い方にでている。検証はきちんと実施しているのですか。子どもたちは「国語は大切だ」と認識を持っているのに、実際は（成績が）ついてきていない。先生方への授業力向上についての施策を通じて、学力向上に取り組む意欲や技術が向上していたと思っているのかどうか、効果があがってきているかどうか。２８年度の結果は別にして、どう分析をしているのかを聞いておきたいですね。

明渡参事

例えば学力支援コーディネーターにつきまして、各学校へ授業を見に行って、指導・助言をするという点について、その回数は検証をさせてもらっていますが、更にどのように役立ったのかについては検証できていません。

赤坂委員

学力支援コーディネーターの指導を受けて、子どもたちの学習意欲が高揚したとか、先生に実感があるのかどうかが問題だが、その点はどうなっているのでしょうか。

明渡参事

それも検証ができるようにしていきたいと思います。

赤坂委員

子どもたちの学力を向上させようと思うのなら、その分析が大事だと思います。検証して頂きたいと思います。

明渡参事

ありがとうございます。

北浦委員

これまでも数値目標を設けたり、学力向上に対して努力することを各学校が掲げていると思いますが、その点に関しての検証等も行っているのですか。

明渡参事

学力向上委員会で担当者同士、どのような取り組みが有効だったのか情報共有はしています。校長だけが集まってというところまではいっていませんが、学力向上プロジェクトチームには６人の校長と教育委員会事務局も入らせていただいており、どのような取組みが効果があるのか話はさせていただいています。

奥教育長

市としてもこれから集約していく必要があると思うのですが、各学校においては研究組織がそれぞれあり、例えば算数や国語の学力向上のために取組むということで、授業研究を中心にし、年間多いところであれば全ての学年で実施し、その後、前出の学力向上アドバイザーの先生にも入ってもらって検証や反省をやっております。私も昨年までは現場におりましたが、各学校では校長もリーダーシップをとりつつ研究組織を中心に、取り組んだことについて子どもの実態はどうであったかということについて、先生方に学習の意欲はどうだったか話し合い活動はどうだったのかなど細かい項目でチェックし、その年の学校の目標に沿った検証はきちっとやってくれていると思います。全て調べた訳ではありませんが、やっていることは間違いありません。今ご指摘頂いている意欲について、意欲があってもすぐに学力が上がるとは言いづらいのですが、土台には目的意識とか意欲というのはすごく大事なところですので、（各学校の検証状況を）市の教育委員会事務局が全体を把握させてもらい、しっかりと検証していきたいと思っております。

南委員

学力を向上させる別の方法として、先生にやる気を出させて間接的に生徒を鼓舞する方法があると思います。留学生の日本語弁論大会で「教師の日」があるのを知りました。教師の日は学校が休みで、生徒が教師に手紙や花束を贈り日頃の感謝を伝える日だそうです。教師という職業の素晴らしさを教師自身が認識することが長い目で見ると学力向上に繋がっていくのではないかと思います。市長はどのように思われますか。

山下委員

社会人としてお金をもらっている立場ですから、花束をもらうことで一生懸命仕事をするというのは社会人としてはいかがなものかと私は思います。

中村委員

日本では全然浸透していませんが、NPO法人が立ち上がっていて1994年から活動されています。感謝の手紙を強制的にするのは難しいですが、教えるという当たり前のことに「ありがとう」と言

われるだけで救われることもあると思います。

千代松市長

泉佐野市では、「教師の日」は作っていません。それを作りたければ、その分は土曜授業を増やすか、夏休みを減らすなどして充てればいいですよ。

山下委員

私たちは公務員ではなく民間なので、会社の上司の立場からグラフを見るとどうしても、「来年はここまで（数字を）上げておくように」と考えてしまいます。民間の話と学力の問題は全然違いますが、（教育委員として）選ばれた６人は民間出身なので、どうしてもそのように見てしまいます。ですから、市長の厳しいご意見にもまんざら反対ではないということになります。土曜日授業を増やす、夏休みを減らすことも含めて考えてもらっていいと思います。

中村委員

新卒の教職員希望者は年々減っているのですか。

茶谷教職員担当参事

希望者に関してはそう変わりはないです。今現在、現場で頑張っている先生に対して言葉を選ばないといけないと思いますが、受験の競争率をみると今はだいたい３倍くらいの状況です。過去では10倍や15倍の厳しい中で教師になられた先生もいます。両者を比較した場合、そういったものはあるのではないかと考えていかなければなりません。あともう一つ、例えば私たちの世代は良いか悪いかは別にして、学生時代に厳しい事を学んだり、好きでもない人とも付き合っていく中で、もまれて社会にでてきました。今の20代前半から半ばの先生方の世代は、どちらかというと仲のいい友達とだけつながっていて、そのような方が同じように教師になっているのかもしれません。現場に出てしまうと、教職員とも子どもとも保護者とも関わっていかなければなりません。そういった学びについても教えていく必要がある世代であるのも事実かなと感じております。減ったかということについてはあまり減っていませんが、質の問題に関しては数字で表れているのかなと思います。

山下委員

オブラートに包んで言ったとしても、昔より少し下がっているのかもしれないですね。ということは教師の研修のあり方というのを考えていかなければならない。夏休みの間や冬休みの間など、いろいろな時にあると思いますが、先程の指摘を含めた研修は昔に比べて多くしているのですか。

明渡参事

初任者研修が年間30数回あります。

山下委員

そうではなくて、以前と比べて増えましたか。明渡先生が若い頃と比べて増えていますか。

明渡参事

私の頃は、初任者研修はありませんでした。今は１年目の教員には手厚くしていまして、５年目だったり、10年目は免許更新ということもありますので、あらためて研修をし直すということをしています。

山下委員

それは大阪府とか全国とかですか。泉佐野だけ多いということですか。

明渡参事

法定研修と言いまして、初任者と10年目については全国統一でございます。５年目というのについては大阪府がそのようなことを打ち出しております。

山下委員

泉佐野だけ特別にこういう研修をしているとかはないのですか。

明渡参事

全国でやっている研修の中で、何回は市で持ちなさいというところもありまして、それは市でやらせていただいております。泉佐野独自でやっている研修もございます。

山下委員

例えば吹田市など成績の良い市と泉佐野を比べたら、研修の時間はだいたい一緒ですか。

明渡参事

確認できておりません。

山下委員

だいたい一緒ですよね。

奥教育長

実際に違うかどうかわかりませんが、前出した法定研修や泉佐野独自の授業、保育づくりグループの研修、学び講座等に加えて校内でも日頃出来ない研修を１日かけてやるなど行っていますので、私の実感としては、研修の時間に差があるということはないと思います。

南委員

7、８年前と比べたら研修の時間が経済的な理由で、カットされていた時期がありましたよね。

奥教育長

泉佐野市が加入している大阪府の各種研究団体の負担金や分担金が自己負担になっており、全面見直しということで予算がカットされているのですが、それでも研究会に入っていますし、府の大会にも参加していますし、研修としての機会が減っているわけではありません。

畑谷委員

研修の内容は、話を聞くだけですか。それともロールプレーイングですか。

奥教育長

昔の研修は話を聞くだけが多かったのですが、今は府でもどこでも自分たちの取組について班別に交流する方式が中心です。研修自体アクティブになっており、その分だけ身に着く方式になっています。

畑谷委員

研修はどのような内容ですか。

奥教育長

個々の質の向上はもちろんですが、学校が組織として機能するために全体的な取り組みを高めて行く必要がありますので、研修内容は生徒指導面や授業の指導方法、支援教育についてなど様々です。

畑谷委員

資料37ページで「生徒は熱意をもって勉強している」「家庭学習の課題を与えた」のパーセンテージが泉佐野は高いのですが、(35ページを見ると）子どもが家で予習復習をしているパーセンテージがすごく低いことがわかります。これは先生が課題を出しっぱなしで子どもは予習復習をしていない、していないからわからない。その後、先生は予習復習をしていない生徒に対してどのような指導をしているのでしょうか。

明渡参事

私自身の経験になりますが、宿題は出しっぱなしということはなくて、必ず回収をして間違いがないかチェックをしたり、もしくは子どもたち同士で答えあわせをして、間違っているところを教えあったりしています。授業の内容については、予習をしてこないとわからない授業は駄目だと思っていましたので、分からないことについては授業の中で分かるようにしていく。例えば算数でしたら後半は練習問題をさせて机間巡視をして一人ずつ教えたりという形と、またまなびんぐサポート事業で放課後外部の方に指導をしていただいたり、私も会議等がなければ自分のクラスのこどもたちを残して指導したりしていた状況がございました。

中村委員

私たちが学校訪問で見させていただくときは、１時間くらいしかなく、また廊下からしか見えないので、朝から１日どういう動きをされているのかわからないです。可能であれば１日同行してみたいと思っていたのですがいかがでしょうか。

明渡参事

学校によってという言い方になってしまいますけれども、オープンスクールということで朝から

帰りまで、ある学校では２日間いつでも来ていただいても可能という取り組みをしております。

奥教育長

第二小学校はいつでも参観が可能なのではないですか。

中村委員

はい。行っていますが、気になる先生が居たら朝からの動きを観察させていただきたいと思っています。同じことを思っている保護者の方もいらっしゃいます。生の子どもたちとのやりとりやこういう表現をしているとか、見学したいと思います。

山下委員

それは越権行為になってしまうので、教育委員会としては校長にこんな先生がいるかもしれないので注意を払ってくださいとお願いするべきだと私は個人的には思います。

千代松市長

土曜授業を増やすことで学校の先生がしんどいということであれば、１年間、塾か何かに任せればいいですよ。土曜授業を月に二回実施するのであれば、一回は塾の講師に委託すればいいのではないですか。考えてみて下さい。

上野教育部長

他にございませんか。

中村委員

結局、公立の教育というのは真ん中までのボトムアップに重きが置かれているのであれば、それ以上の子は民間の塾等で勝手に伸ばしてくださいという方針であれば、市長のおっしゃるようにもっと全体的にあげるのであれば民間の力を借りるのも有りだと思います。

北浦委員

私も土曜日授業が始まったわけですが、全てを先生にというと、スタートしたばっかりで急すぎると。市長がおっしゃられるように外部からの導入が可能であれば、私も賛成です。

中村委員

以前大阪市がバウチャー券を使って、塾とかに行っておいでという制度がありましたよね。そのようなものを工夫して学力を上げるのも必要だと思います。

赤坂委員

民間を利用するのも一つの手だと思います。話が少し元に戻りますが、教師として良い人材を泉佐野に求めるというのは基本だと思います。学力にしろ学習にしろ。さっき、教職員の志望者の話を聞きましたが、教師を職業としてみるならば、学生たちの志望するランキングが下がっている。その中で人材を求めていかなければならない。泉佐野市に魅力のある教育環境を整えないといけな

いので、そのような取り組みも必要であると考えます。この先生はどうした理由で泉佐野市からお辞めになるのか、教育委員会として人材の流失に関して、危機的に感じた事例はあるのですか。

茶谷参事

人材が泉佐野市に留まるかという問題ですが、これも教員の質の問題につながってくると思うのですが、ちょうど初任から10年目までの先生を見たときに、中学校では約半数が退職であるとか他市へ異動ということで泉佐野市から抜けています。これはすごく危機に感じております。小学校は少し低いのですが、中学校は約半数です。これは大阪府全体で見たときに、いわゆる希望地というというものがあるのですが、淀川と大和川を境にして大体3対2対1の希望割合です。南のほうは非常に少ないです。そのようなこともあり、大阪府の方からよく言われるのが、最初は自分の出身地に近いところに勤務地が割り当てられるのですが、どうしても大阪の南のほうは元々出身者が少ないこともあり、他府県から大阪府を受験されて合格された方が来るというのが非常に多いです。おそらく今年度につきましても、他府県に帰られる方がいるという問題が起こっています。泉佐野市で育った先生が本当は中核になって学校を支えていかなければならないのですが、それがいなくなってしまう。結局若い先生を一から育てないといけないということになっています。これは泉佐野市だけの問題かどうか今後分析していかなければならないと思っております。他市では泉南地区で同じことが起こっていると聞いております。危機的に捉えております。

赤坂委員

ふるさとで教員をしたいという人の中で、先生の生活基盤が向こうだから向こうに行きたいのか、それとも泉佐野市が嫌だから出ていきたいのかの分析はできていますか。

茶谷参事

そこまでまだ分析ができておりません。

赤坂委員

感覚ではどうでしょうか。泉佐野市の教育の価値観が他市よりもよくないというバロメーターになるので。どちらかと言えばちょっと低めのバロメーターになっているのかなと思いますので。

茶谷参事

これも世代で比べたら良くないのですが、例えば私の場合は泉佐野市で教師になり、阪南市のほうに交流で行った時に阪南市のほうで留まることもできましたが、やっぱり泉佐野市で育ててもらったことがあったので3年間で帰ってきました。泉佐野市が嫌だとか全くなくて、最初に教師になったところで子どもを育てていきたいという気持ちがあったのですが、今の若い先生方というのは移ることにあまり抵抗感がないのかなと思います。泉佐野市が嫌だとかいう部分については検証していかなければならないのですが、今の先生方の感じ方というのが掴みきれていないところもありますので、そういうこともあるかもしれないと捉えておきます。

北浦委員

私たちも教師であれば茶谷先生のような考えになると思います。そういうふうに考えてくれる先

生ばかりだといいのですが。私も（土曜授業を）月に２回ではなく月に４回やればいいと前から思っていましたけれども、それをやることによって倍率は下がっていく。それに伴って質は落ちていくと思いますので。

茶谷参事

教育環境、先生方の働きやすさについては、泉南地域では一番の素晴らしい建物が整ってきていますので、他市から来られた先生方は非常に評価をしています。これが今後授業についても良い影響となっていくのではないかと思います。

中村委員

昔は先生と年賀状のやり取りをしたり、生徒と恩師としても交流があったかと思いますが、最近は希薄になっていると思います。人と人との繋がりや絆や出会いを大切にできる教育だったらいいのにと期待しています。

千代松市長

いい先生が辞められる要素のひとつとして、校長や教頭から聞いてきた中で一番多いのは保護者との衝突ですね。それも何とかしていかなければならいのではないですか。無理な要求をしてくる親御さんもけっこういらっしゃるそうなので、それ専門の相談員とかを教育委員会で設けたらどうですか。人員は教員の中から出てもらうのか、市の職員からかOBからでてもらうか。逆に言えば先生からの相談を受け付けるような体制を、教育委員会でもったほうがいいのではないのですか。これからは先生方も教育委員会も毅然として対応していったらいいと思いますよ。そういう風土を泉佐野市は根付かせていったらいいのではないですか。

中村委員

以前、スクールソーシャルワーカーさんとかどのような動きをされているのか質問したのですが、個人情報の問題等で具体的な内容が把握できませんでした。ソーシャルワーカーさんは各中学校区に一人配置されているのですよね。決められた曜日に学校に行っているのですよね。

奥教育長

それはスクールカウンセラーではないですか。

和田人権教育担当参事

スクールカウンセラーのことだと思います。

中村委員

学校側がスクールカウンセラーさん行ってくださいと直接依頼されるのですか。なかなか学校にこれない子どもさんがいて、ずっと親御さんにも会えないときにその方と担任の先生が家庭訪問をされたりするのですか。

和田参事

そういった場合もあります。学校から要請がありまして、スクールカウンセラーや、ソーシャルワーカーと一緒にということはございます。

中村委員

苦情や問題点を担任が個別でうけているから、苦情の電話に対応したりしなければならないということですよね。担任の先生が学習指導だけに専念できるように、生活指導担当の副担任を配置するのはどうでしょうか。予算的に厳しいでしょうか。

千代松市長

それは無理です。むしろ無理な要求をする親御さんと対峙してしまったときに先生方が相談できる場所と、矢面に立ってあげられる人をこれから配置していったらいいのではないでしょうか。

山下委員

それは大きな予算をとられるのではないですか。各学校に１人くらい配置できたらいいということですか。

千代松市長

モンスターペアレントに１日中対応することは無いと思いますが。

山下委員

どんな感じですか。

奥教育長

今市長がおっしゃったことを含めて、学校で学習をきちっとやっていくという意味あいにおいては、厳しい家庭の状況があるような子どもさんもたくさんいるので、そこのところきちっとフォローできたり支援できたり、いろんな状況にも対応できるような家庭支援というか、子どもの支援を含めてのそのような人材は確かに必要だと非常に思っています。今後考えていきたいと思います。

中村委員

生涯学習課が担当の家庭教育学級というのがあります。毎回出席させていただいていますが、一般の保護者さんは各小学校区の児童民生委員さんを誰がやっているのか、何をしているのかご存知ないようです。家庭教育学級そのものが機能していないと思ったんです。家庭教育学級に行きませんかというお手紙がきても、参加するのは難しいと思うのですが。

赤坂委員

モンスターペアレントは泉佐野だけでなくどこにでもいるわけだから、対策にはどこでも苦労なさっていると思います。市長がおっしゃられるように教職員の職場環境改善の１つですからね。言ってみれば本来の教職の立場以外の仕事を加えるということですからね。いつも教職現場に厳しい市長がやりましょうと言ってくださっているので、甘える形で取組んでいったらいいと思います。

モンスターペアレント対策もそうですし、給食費の集金の問題もありますし、修学旅行の費用も含めて先生方の職場環境改善をして、生徒に対する本来の教育学習の環境をつくるのも大事だと思います。モンスターペアレント以外の他の要素も含めて対策を講ずるといいと思います。

茶谷参事

本当にありがとうございます。子どももそうですが、先生方も何かに守られるという安心感で力を発揮できるというのもあると思います。先程からモンスターペアレントが厳しいという話がありますが、もちろんある場面ではそういうことが起こるとは思っています。ただ、それを理由として泉佐野から出たいと言ったとしても、じゃあそこで何もないのかと言われればそういうことはありません。私も大阪府のいろんな担当者から話を聞く中で、泉佐野市が特段厳しいという思いは全然もっていません。もっと言えば北のほうでは親の要求というのは非常に強いと聞いています。逆に南のほうは先生方とつながりを強く持っているので、もちろん過度な要求をされる方もいらっしゃいますけれども、北と比べたらさほど多くないと聞いております。なので、先程も言いましたけれども、嫌な事を理由に出たとしても結局はそういう先生なのかなと。そこへ行って同じような場面に遭ったらまたどこかへ行くのかなと捉えておりますので。本当にいい意見を聞かせてもらってありがとうございます。それを活かしていきたいと思います。

上野部長

他にございませんか。いろんな側面から学力向上に向けたご提案をいただきましたし、市長からも貴重なご提案をいただきましたのでこれも含めて、今後実践に向けて進めていきたいと思います。

よろしいでしょうか。

それではその他に移らせていただきます。事務局からは特にございませんので、皆様から何かございますでしょうか。

千代松市長

さっきの話の続きではないのですが、教育委員会でも直接無理を言ってくる方もいると思います。そういう場合は、遠慮せず警備を呼んだり警察を呼んだりして対応するようにしてください。みなさんの仕事がそれで妨げられるでしょうから。

上野部長

ありがとうございます。

赤坂委員

それに関しては学校で何かあって、教育委員会の方に怒鳴り込んでくるということだから、学校で起こっている事を風通しのいいように、教育委員会が時間的な面も含めて迅速に把握して、教育委員を含めていろいろプライバシーの問題もあるでしょうが、伝えていただくというのも必要だと思います。怒鳴り込んでこられて、何を言っているのかわからないのに警備を呼んでも具合が悪いので、対応できるような体制が必要だと思います。

中村委員

年間の行事日程の調整のことですが、各小学校で運動会やすこやかネットの行事がそれぞれ違うように決められているのはわかりますが、青少年課や学校教育課などが主催するイベントの日程を学校とすり合わせて欲しいです。例えば今回の「歩き愛です」の23日はプレイパークがあったり、二小では運動会があったりとか。ある地域の子は行けても、ある地域の子はいけないということが起こります。イベントごとになるべく多くの子ども達や保護者が参加できるような配慮や工夫をしていただけたらと思います。

奥教育長

1月か2月に行事調整会議がありましたよね。事前に分かっているものは出し合ってやってくれているのですが、市のいろいろな行事に関してはそこまでの日程がわかってなくてということもありますので、それは出来る限り集約してできるようにさせていただきます。

上野部長

よろしいでしょうか。それではこれをもちまして第２回泉佐野市総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。

（午前１１時２０分閉会）